

厚生労働行政推進調査事業費補助金（厚生労働科学特別研究事業）
（分担）研究報告書

「学生のための法医学セミナー」アンケートに関する研究

研究分担者 前田一輔 横浜市立大学 医学部 助教

研究要旨

法医実務を円滑に実施するために、医師以外のコメディカルの人材育成とリクルートは重要課題である。令和6年8月24-25日に横浜市立大学 医学部看護棟にて開催した「学生のための法医学セミナー」の参加者に対してアンケートを実施した。本研究ではアンケート結果をまとめた。参加者は女性が多く、学部学生が約9割を占めていた。セミナー参加者の58%が臨床検査科や保健学科などの学生であり、法医実務の効率化を図るための貴重な人材確保として、本セミナーは有効であったと考える。セミナーに参加して法医学の印象が良い方向に変わったと回答した参加者が多かった。将来、法医学者になりたいと回答した学生が約7割であり、残りの回答は「検討中」あるいは「すでに法医学者の道を選択している」というものがほとんどであった。次回、同様の機会があればセミナーに参加したいと回答した参加者が94%であり、法医学を啓発する機会を設ける必要性についても示された。各アンケート項目の結果は本研究によってある程度、まとめて提示することができた。一方、各アンケート項目の自由記載欄にも多くのコメントがあり、これらについては今後詳細を検討する。

A. 研究目的

少子高齢化や犯罪の複雑化を背景に、法医解剖の対象症例は増加傾向にある。さらに死因究明は重要な課題であり、社会ニーズの高まりとともに法医実務への負担は大きくなっている。増大する法医実務を維持するために医師のみならずコメディカルの人材育成とリクルートは重要課題である。

本研究では、「学生のための法医学セミナー」の参加者に対して実施したアンケート結果をまとめ、その結果を分析する。

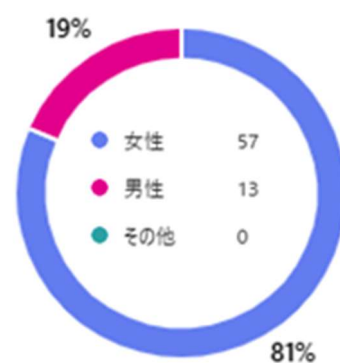
B. 研究方法

令和6年8月24-25日に横浜市立大学 医学部看護棟にて開催した。本セミナーは、医学部生だけでなく、臨床検査学部、保健学部、薬学部など法医学に関連する多くの領域の学部学生・大学院生を対象とした。セミナーに参加した学生らに対してアンケートを実施し、その結果をまとめて分析した。

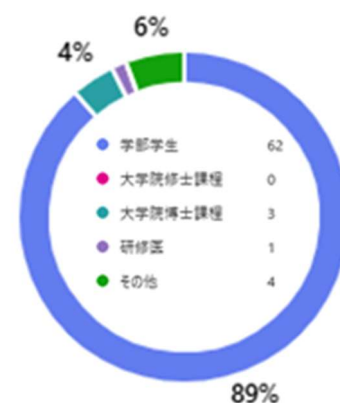
C. 研究結果

実施したアンケートの結果の概略は以下の通りである。

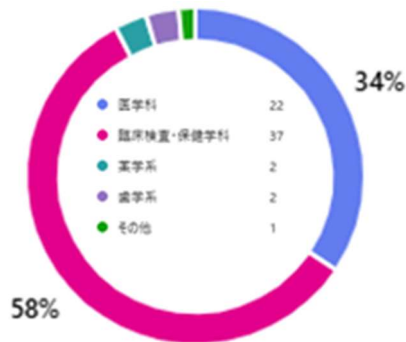
①性別



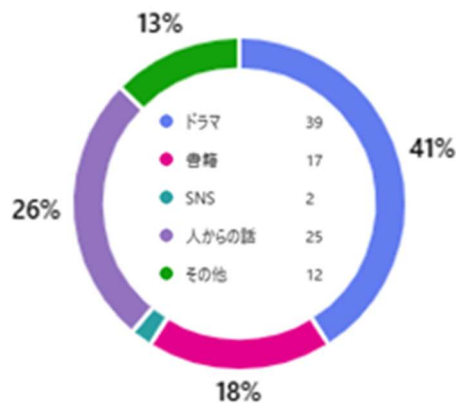
②身分



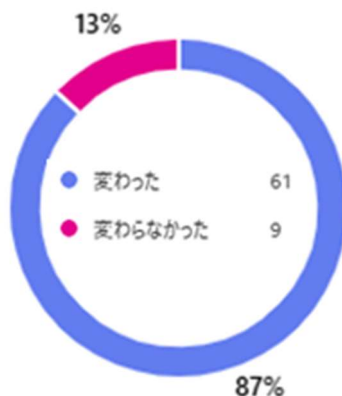
③専攻・所属



④法医学に興味を持った理由

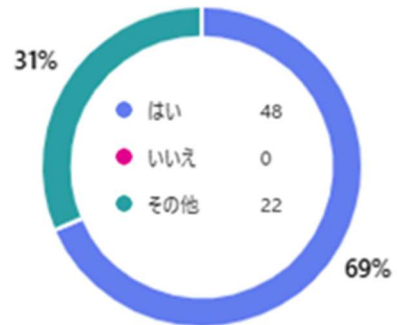


⑤セミナーに参加して法医学の印象が変わったか？



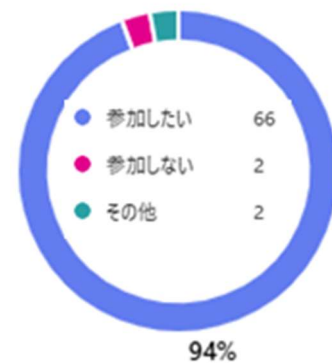
セミナーで印象が変わらなかったと回答した理由の多くは、「既によく知っていたから」「大学院生として、すでに法医学を学んでいるから」などであった。

⑥将来、法医学者になりたいと思ったか？



その他と回答した理由の多くは、「迷っている」「検討中である」であった。なかには「既に進路として選択している」という回答もあった。

⑦次回も同様のセミナーを開催したら参加したいか？



参加しないと回答した理由は「既知っていることが多かったので」であった。その他の理由は、「交通費や宿泊費が本人負担なので、開催地による」というものであった。

⑧セミナー参加者の満足度



D. 考察

過去に、医学部の学生を対象とした法医学に関するセミナーは開催されたことがあるが、医学部以外の学生を対象として開催されたセミナーは初めてであった。手探りで開催されたセミナーであったが、アンケート結果を見る限り、参加者の満足度は高く、有意義な企画であったと考えられる。

セミナーでは、医師以外の法医学者から具体的な講義があり、法医学領域には多職種の活躍の場があることを啓発する機会となった。次回、同様の機会があれば参加したいと回答した参加者が9割を超えていることは、若い学生がこのようなセミナーに興味を持ち、セミナーを開催することには意義があると考えられる。

アンケートでは、想像以上の参加者が「将来、法医学者になりたい」と回答してくれており、大変心強い結果であった。今回のセミナーの大きな成果であったと考える。一方で、大学の教員ポストには限りがあることも事実であり、特に医師免許を持たないコメディカルの採用は狭き門である。法医学領域では若手のコメディカルの需要があり、若いコメディカルからは就職希望があるにもかかわらず、財源やポスト不足によってそれが叶わないとすれば、とても残念であり、勿体ないことである。

法医学では他の基礎講座にはない「法医実務」という社会的任務があり、その任務を円滑に遂行するためにも、何らかの形で彼らを雇用する施策を検討することが課題と考える。

E. 結論

「学生のための法医学セミナー」を通して、医師以外の若い学生に法医学を周知・啓発できたことは、本セミナーの成果である。医師以外のコメディカルを充実させることが、法医実務の円滑な遂行のひとつの方法であることを考えると、法医学に興味を持ち、進路として検討している学生を増やすことは、人材確保の大事な一歩である。また、優秀な人材を雇用するためのポストを確保するための施策は、重要な検討課題である。

F. 健康危険情報

該当なし。

G. 研究発表

1. 論文発表

該当なし。

2. 学会発表

該当なし。

3. 関連した実務活動

該当なし。

H. 知的財産権の出願・登録状況

該当なし。